

福祉みやぎ

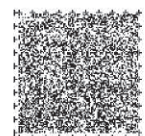
CONTENTS (主な内容)

- | | |
|---|---|
| <p>P 2 特集
「100周年の記念すべき大会となる東京2025デフリンピック」～スポーツを通してサポートの輪を広げる～</p> <p>P 4 Heart&Works (ハート&ワークス)
「認知症になっても自分らしく地域で暮らし続けるために」～9月21日認知症の日、9月認知症月間に向けて～</p> | <p>P 6 令和6年度事業報告</p> <p>P 9 令和6年度決算報告</p> <p>P 11 県社協ってこんなことやってます
福祉研修センター</p> <p>P 12 県社協掲示板</p> |
|---|---|

タイトル 女神さま

作 者 特別養護老人ホーム 和風園の皆さん

利用者さんの健康を見守ってもらえるようにと和風園独自の女神さまを作成しました。
「作品が目立つように作りたいね！」と利用者の皆さんでアイデアを出し合い、髪の毛はナイロンテープで身体は紙皿を使い、完成させました。



宮城県福祉人材センター
マスコットキャラクター
「ふくしのほっしー」



福祉みやぎアンケート

「福祉みやぎ」に対するご意見・ご感想をお待ちしています。
回答は、こちらです。



宮城県社協のホームページもご覧ください

宮城県社会福祉協議会

検索



表紙作品募集!!

福祉みやぎの表紙作品を募集しています。
ご興味のある方は、以下までご連絡ください。

総務部経営戦略課企画係
022-779-6967

第33回宮城シニア美術展作品募集について

「宮城シニア美術展」は、高齢者の創作活動による作品(日本画・洋画・書・写真・工芸)の募集・展示を通して、ふれあいと生きがいづくりの促進を目的に開催します。作品募集については下記のとおりです。

募集対象: 日本画・洋画・書・写真・工芸の5部門

テーマ: 自由

応募資格: 県内在住60歳以上のアマチュアの方

出展申込料: 1作品1,000円(出展は各部門1人1点)

申込期間: 令和7年7月1日(火)から10月31日(金)まで

展示会場: せんだいメディアテーク 5階ギャラリー3300c

展示期間: 令和7年12月12日(金)から12月14日(日)まで

審査: 各部門専任審査員が審査します(表彰式あり)

その他: 各部門の最優秀賞・優秀賞作品は、令和8年に開催の「ねりんピック彩の国さいたま2026」美術展部門に宮城県代表として出展させていただきます。

※出展規格、出展方法、詳細は本会ホームページから作品募集要項をご参照ください。



▲昨年度の各部門最優秀作品



お問い合わせ・申し込み先

宮城県社会福祉協議会
いきがい推進センター

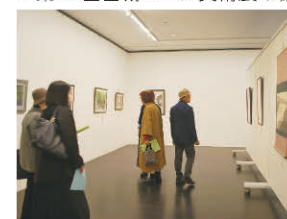
TEL: 022-223-1171

宮城県社協のホームページはこちら

URL: <https://www.miyagi-sfk.net/participation/317/>



▼第32回宮城シニア美術展の様子



宮城県ボランティア活動保険をご利用ください

保険の更新はお済みですか?

安心してボランティア活動をするために! ボランティア活動中のケガや損害賠償責任を補償するボランティア保険。

活動前には是非ご加入ください。

…詳しくはホームページをご確認ください。

お問合せ

みやぎボランティア総合センター
(株)オンワードマネジメント

TEL 022-739-9843
TEL 022-762-9915

この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。



オンワードマネジメントのサイトにリンクします。



この印刷物は、植物性油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。
また、ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。



100周年の記念すべき大会となる 東京2025デフリンピック

スポーツを通してサポートの輪を広げる



▲東京2025デフリンピック大会エンブレム

2025年は日本で初めてデフリンピックが開催される年となります。「デフ」とは英語で「耳がきこえない」という意味であり、デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人」のためのオリンピックとして、4年ごとに開催されています。今回はきこえない・きこえにくい人についての理解を深め、秋に迫ったデフリンピックをより楽しむため、一般社団法人宮城

県聴覚障害者協会及び宮城県聴覚障害者情報センター（愛称…みみサポみやぎ）を取材しました。

聴覚障害とは？

聴覚障害は音がきこえない、もしくはきこえにくい障害で、見た目では分からない障害です。一言で聴覚障害といっても人によってきこえる音の大きさの「差」やきこえ方の「違い」があります。医学的には25dB以上（紙に鉛筆で文字を書く際の「カツカツ」くらいの音量）の音でようやくきこえる状態の場合を呼んでおり、数字が大きいほど音が大きいことを表しています。

今回取材をした聴覚障害の当

事者であるみみサポみやぎの松本施設長から「聴覚障害は周囲の理解がとて大切で。先天的な障害のほかにも、近年は加齢による難聴も増えてきています。早めの補聴器の使用と家族の正しい理解のため、当センターの出前講座等も活用してほしいです」との話がありました。補聴器や手話言語、読話など様々な会話の手段があります。が、「補聴器を付けていると常に問題なく声がきこえる」といった誤解も多々あります。補聴器による効果は個人差があり、生活環境によってコミュニケーションも多種多様であるという正しい理解を広めていく必要があります。

東京2025デフリンピック大会概要

第1回大会は、1924年にフランスのパリで開催され、今回の東京2025デフリンピック

は、100周年の記念すべき大会で日本での開催は初となります。

デフリンピックは、①補聴器などを外した状態できこえる一番小さな音が55dBを超えており、②各国の「ろう者スポーツ協会」に登録されている選手で、記録・出場条件を満たしている人が出場できます。

大会期間は11月15日から26日までの12日間で、70から80の国と地域から約3,000人の選手の参加を見込んでおり、21の競技が開催される予定となっています。また、大会ビジョンとして「①デフスポーツの魅力や価値を伝え人々や社会とつなぐ」「②世界に、そして未来につながる大会へ」「③誰もが個性を活かし力を発揮できる」共生社会の実現」を掲げています。

見どころ・楽しみ方

デフリンピックでは全くきこえない方からきこえにくい方まで様々な方が出場しますが、全員が同じ条件で競うため、少しでも音がきこえる選手は補聴器を外さなければならないというルールがあります。宮城県聴覚

障害者協会の菅原副会長は、「音がきこえない選手たちに開始や終了、反則等の合図を送るため、スタートランプやフラッグなど、音ではない方法で視覚的に情報を伝えていきます。耳がきこえないという障害があっても、きこえる人たちのオリンピックに出場している選手と同じハイレベルのパフォーマンスをみることが出来ます」とデフリンピックの魅力を語ってくれました。

一般的にスポーツの応援は声や音に頼るものが多く、きこえない・きこえにくいアスリートの世界「デフスポーツ」では、

観客がアスリートに応援を届ける手段は限定的でした。そのため、デフリンピック100周年という節目を機に、「目で見る応援」である『サインエール』が開発されました。菅原副会長は「サインエールが広まることで、デフアスリートへの応援が盛り上がることを期待したい」と話します。

『サインエール』は、目で世界を捉える人々の身体感覚と日本の手話言語をベースに創られています。手話言語は国際手話という統一のものもありますが、国ごとに独自の手話言語もあるのが特徴です。『サインエール』の紹介をしているページもありますので、是非新たな応援スタイルを学んでみてください。



▲サインエールの紹介



▲宮城県聴覚障害者協会 菅原副会長

日本での初開催となる東京2025デフリンピックには本県からも複数の選手が出場し、今大会で2連覇がかかっている選手もいます。今後、開催に向けてイベント等も増えてきます。サインエールやオリンピック等との合図の違いなどデフリンピックならではの見どころを楽しみながら、日本選手を応援しましょう。

一般社団法人 宮城県聴覚障害者協会

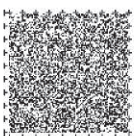
聴覚障害者の生活向上のために福祉、手話言語、労働、教育、医療などの現状問題解決や、社会参加促進のために行政等への交渉、デフスポーツ支援等を行っています。

住所…仙台市宮城野区幸町4丁目6-2 宮城県障害者福祉センター内

みみサポみやぎ

当事者やその家族が地域で安心して暮らすための支援として、①情報発信、②地域とのつながりづくり、③支援活動の拠点、④相談窓口、⑤人材の養成・研修を行っています。

住所…仙台市青葉区上杉3丁目3-1 みやぎハートフルセンター1階



認知症になっても自分らしく地域で暮らし続けるために

9月21日認知症の日、9月認知症月間にに向けて

認知症の人と家族の会

宮城県支部代表 若生 栄子さん



認知症ケア専門士。
宮城県支部設立時から世話人として活動に関わる。
2019年より現職。
認知症の人の心と通じ合う瞬間、心の奥底につながることに魅力を感じている。

2022年の推計では65歳以上の高齢者3・6人に1人が認知症または認知症予備群とされており、認知症は誰もがなり得る身近な病気です。こうした中で、認知症になっても自分らし

く地域で暮らし続けるために「新しい認知症観」という考え方が広がっています。今回は、公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部代表の若生栄子さんにお話を伺いました。

「新しい認知症観」について教えてください

「認知症」という言葉を聞くと、どのようなことを思い浮かべますか。認知症の人は何もわからなくなる、なったら終わりだ、認知症なんて他人事で関係ない等の考え方を持っている方が今までは多かったと思います。

令和6年1月、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法（以下、「認知症基本法」という。）」が施行されました。この認知症基本法に基づく基本計画の中で示されたのが「新しい認知症観」です。

「新しい認知症観」は「認知症になっても個人としてできることがあり、住み慣れた地域で仲間と共に、希望をもつて自分らしく暮らすことができる」という考え方です。

家族や支援者、地域の方々は「新しい認知症観」を理解した上で、身近な認知症の人の声に耳を傾けその思いを知り、「認知症は他人事ではなく自分や家族がなったら」と、自分事として考えていただきたいです。

認知症になっても地域で暮らし続けるために必要なことを教えてください

まずは誰かとつながることが大切です。認知症と診断されると本人は、これからどうなるのだろうと不安な気持ちになります。同時に、家族も本人と同様に、あるいはそれ以上に不安な気持ちになり、他人に知られたくないと思ってしまいがちです。隠すことで孤立し、本人も家族もどんどんつらく苦しい状況になってしまい、家族関係の悪化につながります。地域には、認知症の人同士の

最後に

若生さんから「超高齢社会になり、誰もが認知症になる可能性があります。そうなったらどうしたいか、どうしてほしいか、自分や家族が認知症になる前に今から考えておきたいですね」とメッセージを頂きました。一人ひとりが「新しい認知症観」を理解し学び合い、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を目指したいと思っています。



▲認知症の人、家族、世話人で作る「翼合唱団」コンサートの様子

軽くなる方が多くいます。（※本人同士の出合いの場や、家族同士の出合いの場は各市町村にお問い合せ下さい。）



▲Live ライトアップイベントでオレンジ色に染まる「石ノ森萬画館」

公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部とは

認知症の人と家族の会は1980年に京都で発足しました。宮城県支部は1995年に設立、今年で満30年になります。家族の会は、「つどい※、電話相談、会報発行」の3本柱で活動しています。

（※介護者のつどい、本人・若年認知症のつどい「翼」、認知症の方を介護して看取りを終えた方のつどい「こうさてん」、認知症スポーツカフェ「ほっと」）

その他、認知症介護講座・相談会、世界アルツハイマーデー記念講演会、認知症のテーマカラーであるオレンジ色に建物をライトアップするLive ライトアップYouTube配信等も行っています。

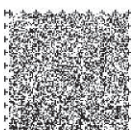
今年も9月の認知症月間に、記念講演やライトアップイベント等を実施する予定です。詳細はホームページをご覧ください。



問合せ先

公益社団法人宮城県認知症の人と家族の会 宮城県支部
住所 仙台市青葉区上杉3丁目3-1 みやぎハートフルセンター4階
電話 022-263-5091

（電話相談は平日の午前9時から午後4時まで。名前を名乗らなくても大丈夫です。まずは声だけでつながり、介護のお悩みやお気持ちを相談してみませんか。）



『経営理念』

宮城県社会福祉協議会は、本県における地域福祉推進の中核機関として、市町村社会福祉協議会をはじめ、福祉諸団体、NPO法人、ボランティア等幅広い関係者との連携・協働のもと、高い公益性とともに民間法人としての自主性、創造性を発揮して『誰もが身近な地域で安心していきいきと暮らせる地域づくり』に取り組むとともに、公共性の高い施設運営を通じて、豊かな福祉社会の実現を目指します。

『経営方針』

- 1 地域住民が支え合う地域共生社会実現のための“地域づくり”の推進
- 2 地域における福祉サービスの担い手確保・育成に対する支援
- 3 安心して地域で暮らし続けられる支援体制の整備
- 4 安定的・継続的に地域福祉を推進するための運営基盤の強化
- 5 本会施設等における質の高いサービスの提供とセーフティネット機能の発揮

事業報告の概要

1 地域住民が支え合う地域共生社会実現のための“地域づくり”の推進

〔地域福祉推進計画：基本方針1〕
183,036,388円

（1）地域福祉活動の推進

宮城県と共に宮城県地域共生社会推進会議を運営し、会議を8月と12月に開催しました。令和6年4月に孤独・孤立対策推進法が施行され、宮城県が推進会議を宮城県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームとして位置付けたことにより、12月の会議では、孤独・孤立対策をテーマに行政説明や基調講演、事例報告を行いました。また、3町社協の地域福祉活動計画の策定委員やアドバイザーとして関わり、地域住民や関係者が地域課題を把握し相互に連携・協力するとともに、住民主体の活動が広がるよう助言しました。

コミュニケーションソーシャルワークの視点を持つ人材を育成するための研修を2回開催43人が受講し、市町村社協をはじめ地域福祉関係職員の資質と実践力の向上に取り組みました。介護予防・日常生活支援総合事業等の円滑な実施に向けて、市町村支援のプラットフォームとして宮城県が設置する「宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議」の事務局を運営し、市町村が取り組む多様な生活支援ニーズに対するサービスの充実が図られるよう、県内14市町の担当課や26市町の社協等を延べ83回訪問し、現状の把握や助言を行い、見守り活動など地域における支え合い活動の充実に努めました。

（2）市町村社協の基盤強化とネットワークの充実

社協に求められる役割の理解と情報共有のため、8月に市町村社協会長・事務局長会議を、1月に事務局長会議を開催し、目指すべき方向性や課題を共有しました。また、市町

村社協が連携し、情報共有、課題研究、基盤強化及び職員の資質向上を図るため「宮城県市町村社会福祉協議会連絡会」を運営し、10月及び2月に幹事会を開催しました。そのほか、11月には県内3圏域（東北・県中央・県南）で圏域会議を開催し、3市町村協からの取組報告や「人件費に関する懸案事項と対応」「社会費や民間財源の活用」についての意見交換を行い、経営に係る課題を共有しました。

（3）東日本大震災に係る復興支援から得られたノウハウの普及

災害時対応と平時の取組の重要性について認識を高めるため、本会が令和3年3月に策定した「東日本大震災支援における10年の検証と提言 被災地（若）支援指針」を、宮城県災害派遣福祉チーム員養成研修や、本会新任職員研修で活用し、人材育成に努めました。また、七ヶ浜町社協でのサロン活動支援や南三陸町社協での被災者支援月例会議などで、被災市町村協の個別の状況に合わせた助言や情報提供などの支援を行いました。

（4）ボランティアの育成と福祉教育の推進

市町村社協ボランティアセンターが開催した運営会議に委員・オブザーバーとして5回、研修講師として11回出席しました。また、川崎町社協と共に地域指定福祉教育推進事業を実施し、住民の社会福祉問題への関心と理解を深めるなど、福祉教育の推進に努めました。住民によるボランティア活動の活性化のため、ボランティア・市民活動振興基金の運用収益を、市町村社協に対して人口規模に応じた助成し、ボランティア養成研修などに活用されています。

（5）元気高齢者の社会参加促進

県内5地域で運営している「宮城いきいき学園」では、新型コロナウイルス感染症の影響と定年制の延長や就労意識の高まりなどから、令和2年度以降入学人数が減少傾向にありましたが、令和6年度は前年比で11人増加し、82人が入学しました。また、それぞれの地域で社会員

献に参画できる人材の育成等を目的とした2年間のプログラムに取り組み、69人が卒業しました。卒業生には、地域活動におけるリーダーとしての役割を期待し「生きがい健康づくり推進協力員」を委嘱しています。

「ねりんピックはばたけ鳥取2024」には、117人の選手を派遣し、サッカーやマラソンなど複数の種目で入賞を果たしました。「宮城シニア美術展」は、せんだいメディアテークで開催しました。120点の作品を展示し、来場者数は660人でした。選手の派遣や作品の展示を通して、高齢者の社会参加や生きがいくりに寄与しました。

（6）災害ボランティアの受入れ体制の整備

災害ボランティアセンターの準備・運営研修や災害ボランティア運営スタッフ体験研修を7回開催し、社協を中心に展開する被災者支援を行う人材の育成に努めました。また、災害時に備え、オンライン上で編集可能な表計算ソフトを活用して情報収集訓練を実施したほか、県内の市町村社協で共通使用できる災害ボランティアセンター運営支援システムを円滑に活用するための研修会を6市町村社協で開催し、災害対応力の向上に努めました。

（7）各種団体との連携と取組に対する支援

宮城県災害福祉広域支援ネットワーク協議会の事務局を担い、協議会についての理解促進と災害時受援体制強化のための市町村説明会を2回開催し、19市町村が参加しました。また、宮城県災害派遣福祉チーム員の養成研修を3回開催55人が受講し、災害時要配慮者への福祉支援活動の充実に取り組みました。市町村社協及び福祉関係団体から福祉施策等に関する要望を募集し、10団体から17件の要望が提出されました。本会からの要望と併せて、9月19日に宮城県知事宛てに提出しました。

各種団体との連携として、災害時の迅速な

支援や情報共有につながるよう、各種別協議会と情報交換会を開催し、平時からの顔の見える関係の構築を図りました。

2 地域における福祉サービスの担い手確保・育成に対する支援

〔地域福祉推進計画：基本方針2〕
419,984,469円

（1）福祉に携わる人材の専門性を高める研修の企画及び実施

民生委員・児童委員の研修会は4回開催し、474人の参加がありました。また、社会福祉施設の職員に対する研修会は19回開催し、高齢や障害、児童などの分野において質の高いサービスを提供できる人材の育成を図りました。

サービス管理責任者等研修は、基礎研修、実践研修及び更新研修を実施したほか、令和6年度は障害福祉事業者のニーズに応じて専門コース別研修（意思決定支援）を他団体と共同開催しました。

よりニーズに即した研修を実施できるよう、研修後のアンケートに加えて、3月に県内社会福祉施設を対象とした研修ニーズの調査を実施し、今後の研修企画に活用していくこととしています。

（2）多様な人材確保の取組の推進

福祉人材無料職業紹介事業による採用人数は178人でした。前年度の実績は214人であり、36人減少しました。「福祉のしごと説明会」など、就職関連イベントの求職参加者数は前年度より増えたものの、採用数には比例しない結果となりました。上記178人中、福祉・介護人材マッチング機能強化事業による採用人数は59人で、前年度比で2人増加しています。各ハローワークとの共同主催である「福祉のしごと面談会」を、新たに登米地域でも開催したことが増加の要因となりました。

そのほか、若者世代や高齢者の福祉職へ

3 安心して地域で暮らし続けられる支援体制の整備

〔地域福祉推進計画：基本方針3〕
531,985,886円

（1）権利擁護の推進

宮城県が主催する成年後見制度の利用促進を目的とした会議に出席し、各市町村や広域的な支援関係機関と情報交換を4回行いました。また、1月に、宮城県が設置した「宮城県成年後見制度利用促進協議会」に参加しました。

日常生活自立支援事業では、福祉サービス利用に関する相談や日常的金銭管理などを行うとともに、福祉サービス事業者へポスターやパンフレットを配布して幅広く苦情解決制度の周知を図りました。また、苦情解決が円滑に行われることを目的として研修会を行ったほか、福祉サービス利用援助事業の適正な運営の確認のために現地調査等を実施しました。

（2）セーフティネット機能の充実と強化

様々な課題を抱える低所得者等の世帯に対し、市町村社協や民生委員などと連携し、75世帯に対して各世帯に即した生活福祉資金の貸付けを行い、生活の自立を支援しました。なお、新型コロナウイルス特別貸付を含めた債権管

理については、償還計画に基づき適正に返済されるよう、市町村社協をはじめ関係機関と連携して償還指導を行いました。

中国帰国者等が地域で安心して暮らすことができるよう、中国帰国者支援・交流センターの通所者に対し日本語学習支援や交流活動のほか、生活上の困りごとへの来所及び電話による相談対応、通院等に係る通訳派遣等を行いました。

4 安定的・継続的に地域福祉を推進するための運営基盤の強化

〔地域福祉推進計画：基本方針4〕
329,711,026円

（1）安定した運営のための組織体制強化、人材確保・育成及び財源確保

コンプライアンス（法令遵守）を基本に事業の進捗状況を把握し、計画的な予算の執行、基金の運用、資金の確保などの財産管理と、不正防止などの運営上のリスク管理の徹底を図り、健全な法人運営に努めました。平成29年度以降引き続き会計監査人を設置し、社会福祉法に基づき監督を受けています。また、限られた補助金・委託金等の効率的な執行や基金の的確な運用を図り、運営基盤の強化を図りました。

職員確保に向けて、高校、大学等へ採用試験の案内を行うとともに、職員採用説明会を9回開催しました。また、採用試験の在り方を見直し、教養試験を廃止するとともに、受験から合否通知までの期間を短縮しました。採用試験は6月、10月、12月に計3回実施し、応募者は70人、内定者は24人でした。応募者は昨年と比較し、若干減少しています。

職員の役割及び法人理解の促進と、資質・能力の向上のため職員階層別研修を計画的に実施しました。10月には新任職員の育成及び定着を目的として、知識の習得のほか、宿泊研修を実施し、同期職員との交流を図りました。なお、令和6年度から県内市町村社協職員

の人材育成のため、本会の職員階層別研修への参加を可能としました。

（2）地域福祉の推進のための情報発信

地域福祉の推進に向けた情報発信として、各地域の福祉活動事例や本会事業の紹介などを掲載した広報誌「福祉みやぎ」を6回発行しました。また、ホームページでは、高齢・障害・子ども等の分野を超えた活動や住民の支え合い活動の参考事例について情報発信し、他地域への波及を図っています。

5 本会施設等における質の高いサービスの提供とセーフティネット機能の発揮

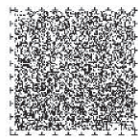
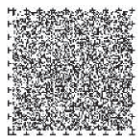
〔地域福祉推進計画：基本方針4〕
4,093,931,511円

（1）指定管理施設の適正な運営

① 宮城県船形の郷

施設の建替え整備が完了したことに合わせ、求められる社会的使命を果たすため、支援体制を再編し強化に努めました。また、強度行動障害を有する利用者への対応として、国立のぞみの園で行われた専門的な現任研修に職員を派遣し支援技術の習得を図りました。利用者の高齢化や障害の重度化、疾患等による身体機能の低下に対応するため、新たにリハビリテーション支援部を設置し、利用者の生活状況の維持・改善に努めました。延べ356人の利用者に身体機能の評価や基本動作訓練などの支援を行いました。

そのほか、令和6年度から県内の障害者施設の職員を対象に強度行動障害支援者実践研修を実施しています。



令和6年度 法人単位（一般会計）決算報告

■法人単位貸借対照表
令和7年3月31日現在

(単位:円)				(単位:円)			
資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	4,146,978,859	4,064,943,112	82,035,747	流動負債	698,171,208	583,457,937	114,713,271
現金預金	3,630,179,918	3,613,287,977	16,891,941	事業未払金	361,718,655	218,211,124	143,507,531
事業未収金	311,572,658	332,287,014	△20,714,356	その他未払金	69,680	0	69,680
未収金	6,649,060	4,011,381	2,637,679	未払費用	21,969,711	22,571,761	△602,050
未収補助金	176,499,591	98,877,107	77,622,484	預り金	40,880,888	66,922,165	△26,041,277
未収収益	3,342,844	3,786,782	△443,938	職員預り金	63,965,687	65,818,929	△1,853,242
立替金	12,021,028	5,206,326	6,814,702	前受金	2,710,000	3,387,500	△677,500
前払費用	6,713,760	7,486,525	△772,765	賞与引当金	206,856,587	206,546,458	310,129
固定資産	8,308,474,507	8,512,386,854	△203,912,347	固定負債	711,306,089	433,052,400	278,253,689
基本財産	1,150,211,279	1,729,391,842	△579,180,563	退職給付引当金	380,548,689	433,052,400	△52,503,711
土地	0	451,860,000	△451,860,000	固定資産除去費用引当金	330,757,400	0	330,757,400
建物	1,139,211,279	1,266,531,842	△127,320,563	負債の部合計	1,409,477,297	1,016,510,337	392,966,960
定期預金	11,000,000	11,000,000	0	純 資 産 の 部			
その他の固定資産	7,158,263,228	6,782,995,012	375,268,216		当年度末	前年度末	増 減
建物	163,871,003	173,744,560	△9,873,557	基本金	11,000,000	11,000,000	0
車輜運搬具	1,848,300	2,573,468	△725,168	基本金	11,000,000	11,000,000	0
器具及び備品	85,203,652	67,016,850	18,186,802	基金	1,570,945,070	1,570,945,070	0
構築物	23,337,473	27,211,974	△3,874,501	社会福祉振興基金	185,477,948	185,477,948	0
機械及び装置	27,467,276	13,063,639	14,403,637	ホスピティア基金	821,046,122	821,046,122	0
権利	441,235	626,848	△185,613	いさいき高齢者支援基金	564,421,000	564,421,000	0
ソフトウェア	12,242,310	17,643,351	△5,401,041	国庫補助金等特別積立金	4,483,036,448	4,673,314,161	△190,277,713
絵画等美術品	6,000,000	6,000,000	0	国庫補助金等特別積立金	997,076,622	1,069,812,332	△72,735,710
福祉系高校修学資金貸付金	8,368,880	5,640,000	2,728,880	国庫補助金等特別積立金(介護修学貸付)	1,700,593,305	1,810,421,290	△109,827,985
介護分野就職支援金貸付金	8,017,340	8,721,000	△703,660	国庫補助金等特別積立金(保育士貸付)	1,540,042,643	1,531,260,428	8,782,215
障害福祉分野就職支援金貸付金	2,866,400	757,700	2,108,700	国庫補助金等特別積立金(保育士再就職)	28,436,415	36,414,083	△7,977,668
介護福祉士修学資金貸付金	717,076,335	706,478,195	10,598,140	国庫補助金等特別積立金(児童養護貸付)	128,876,898	133,446,009	△4,569,111
実務者研修受講資金貸付金	37,578,530	38,276,840	△698,310	国庫補助金等特別積立金(ひとり親貸付)	71,310,032	77,596,708	△6,286,676
再就職準備金貸付金	45,541,700	44,708,350	833,350	国庫補助金等特別積立金(福祉系)	9,301,221	6,291,961	3,009,260
社会福祉士修学資金貸付金	44,784,930	41,512,010	3,272,920	国庫補助金等特別積立金(介護職)	7,399,312	8,071,350	△672,038
保育士修学資金貸付金	1,091,332,180	1,099,309,780	△7,977,600	その他の積立金	2,783,289,983	2,388,868,855	394,421,128
保育士再就職準備金貸付金	6,670,000	7,970,000	△1,300,000	人件費積立金	413,394,209	427,546,088	△14,151,879
児童養護施設退所者自立支援資金貸付金	108,287,080	90,764,230	17,522,850	施設整備等積立金	755,118,479	966,245,472	△211,126,993
ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付	28,844,470	29,212,000	△367,530	建設積立金	1,564,777,295	300,000,000	1,264,777,295
退職手当積立基金預け金	96,685,212	126,728,924	△30,043,712	電気設備準備積立金	30,000,000	30,000,000	0
退職給付引当資産	283,863,477	306,323,476	△22,459,999	社会福祉会館建設積立金	0	645,077,295	△645,077,295
社会福祉振興基金積立資産	185,477,948	185,477,948	0	人材育成・研修積立金	10,000,000	10,000,000	0
ボランティア基金積立資産	821,046,122	821,046,122	0	災害支援積立金	10,000,000	10,000,000	0
いさいき高齢者支援基金積立資産	564,421,000	564,421,000	0	次期繰越活動増減差額	2,197,704,568	2,916,691,543	△718,986,975
人件費積立資産	413,394,209	427,546,088	△14,151,879	次期繰越活動増減差額	2,197,704,568	2,916,691,543	△718,986,975
施設整備等積立資産	453,444,367	665,154,230	△211,709,863	(うち当期活動増減差額)	△324,565,847	△1,999,697	△322,566,150
建設積立資産	1,564,777,295	300,000,000	1,264,777,295				
電気設備準備積立金積立資産	30,000,000	30,000,000	0				
指留施設等建設積立資産	301,674,112	301,091,242	582,870				
社会福祉会館建設積立資産	0	645,077,295	△645,077,295				
人材育成・研修積立資産	10,000,000	10,000,000	0				
災害支援積立資産	10,000,000	10,000,000	0				
差入保証金	3,632,500	8,830,000	△5,197,500				
長期前払費用	67,892	67,892	0				
資産の部合計	12,455,453,366	12,577,329,966	△121,876,600	純資産の部合計	11,045,976,069	11,560,819,629	△514,843,560
				負債及び純資産の部合計	12,455,453,366	12,577,329,966	△121,876,600

■法人単位資金収支計算書
(自)令和6年4月1日 (至)令和7年3月31日 (単位:円)

勘定科目		予 算(A)	決 算(B)	差 異(A)-(B)	
事業活動による収支	会費収入	9,095,000	9,115,996	△20,996	
	分担金収入	817,000	816,043	957	
	寄附金収入	2,223,000	1,820,479	402,521	
	経常経費補助金収入	229,969,000	227,656,353	2,312,647	
	受託金収入	2,852,735,000	2,727,728,078	125,006,922	
	事業収入	61,265,000	53,055,975	8,209,025	
	負担金収入	469,000	469,000	0	
	介護保険事業収入	941,375,000	931,144,104	10,230,896	
	老人福祉事業収入	101,949,000	102,176,461	△227,461	
	就労支援事業収入	8,706,000	7,538,791	1,167,209	
	障害福祉サービス等事業収入	390,197,000	382,559,508	7,637,492	
	生活保護事業収入	304,588,000	304,749,255	△161,255	
	その他の収入	106,016,000	100,796,672	5,219,328	
	受取利息配当金収入	20,271,000	24,272,556	△4,001,556	
	事業活動収入計(1)	5,029,675,000	4,873,899,271	155,775,729	
	支 出	人件費支出	3,383,496,000	3,254,062,122	129,433,878
		事業費支出	1,355,234,000	1,229,246,812	125,987,188
事務費支出		722,856,000	647,670,822	75,185,178	
就労支援事業支出		8,706,000	7,708,391	997,609	
利用者負担軽減額		1,513,000	1,306,486	206,514	
助成金支出		8,490,000	7,894,715	595,285	
負担金支出		1,553,000	1,543,000	10,000	
その他の支出		12,892,000	12,267,106	624,894	
事業活動支出計(2)	5,494,740,000	5,161,699,454	333,040,546		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△465,065,000	△287,800,183	△177,264,817		
その他の活動による収支	収入	固定資産売却収入	519,700,000	519,700,000	0
	支出	施設整備等収入計(4)	519,700,000	519,700,000	0
	固定資産取得支出	74,059,000	65,996,295	8,062,705	
	施設整備等支出計(5)	74,059,000	65,996,295	8,062,705	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	445,641,000	453,703,705	△8,062,705	
	積立資産取崩収入	915,939,000	914,352,470	1,586,530	
	その他の活動による収入	172,871,000	179,034,328	△6,163,328	
	その他の活動による収入計(7)	1,088,810,000	1,093,386,798	△4,576,798	
	積立資産支出	1,291,674,000	1,286,313,599	5,360,401	
	その他の活動による支出	5,416,000	5,344,116	71,884	
	その他の活動支出計(8)	1,297,090,000	1,291,657,715	5,432,285	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△208,280,000	△198,270,917	△10,009,083		
予備費支出(10)	10,000,000		10,000,000		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△237,704,000	△32,367,395	△205,336,605		
前期末支払資金残高(12)	3,688,040,000	3,688,031,633	8,367		
当期末支払資金残高(11)+(12)	3,450,336,000	3,655,664,238	△205,328,238		

■法人単位事業活動計算書
(自)令和6年4月1日 (至)令和7年3月31日 (単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増 減(A)-(B)
サービス活動増減の部	会費収益	9,115,996	9,092,496	23,500
	分担金収益	816,043	734,764	81,279
	寄附金収益	1,820,479	411,076	1,409,403
	経常経費補助金収益	227,656,353	228,941,071	△1,284,718
	受託金収益	2,727,728,078	2,497,905,552	229,822,526
	事業収益	53,055,975	61,369,577	△8,313,602
	負担金収益	469,000	469,000	0
	介護保険事業収益	931,144,104	935,053,506	△3,909,402
	老人福祉事業収益	102,176,461	137,205,463	△35,029,002
	就労支援事業収益	7,538,791	9,158,752	△1,619,961
	障害福祉サービス等事業収益	382,559,508	455,762,928	△73,203,420
	生活保護事業収益	304,749,255	295,692,270	9,056,985
	その他の収益	28,186,229	9,397,057	18,789,172
	サービス活動収益計(1)	4,777,016,272	4,641,193,512	135,822,760
	人件費	3,202,735,043	3,197,651,885	5,083,158
	事業費	1,155,778,538	1,103,864,801	51,913,737
	事務費	647,512,668	540,082,745	107,429,923
費用	就労支援事業費用	7,708,391	9,378,028	△1,669,637
	利用者負担軽減額	1,306,486	1,174,791	131,695
	助成金費用	7,894,715	9,724,295	△1,829,580
	負担金費用	1,543,000	1,543,000	0
	減価償却費	136,373,487	141,876,071	△5,502,584
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	国庫補助金等特別積立金取崩額	△328,047,885	△333,919,359	5,871,474
	サービス活動費用計(2)	4,832,804,443	4,671,376,257	161,428,186
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△55,788,171	△30,182,745	△25,605,426
	受取利息配当金収益	24,272,556	23,026,522	1,246,034
	その他のサービス活動外収益	25,868,258	18,471,015	7,397,243
	サービス活動外収益計(4)	50,140,814	41,497,537	8,643,277
	その他のサービス活動外費用	12,267,106	12,484,537	△217,431
	サービス活動外費用計(5)	12,267,106	12,484,537	△217,431
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	37,873,708	29,013,000	8,860,708
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	△17,914,463	△1,169,745	△16,744,718
特別増減の部	施設整備等補助金収益	0	7,177,000	△7,177,000
	固定資産受贈額	0	3,700,000	△3,700,000
	固定資産売却益	67,840,000	0	67,840,000
	その他の特別収益	138,899,000	213,806,000	△74,907,000
	特別収益計(8)	206,739,000	224,683,000	△17,944,000
	固定資産売却損・処分損	375,170,212	4,529,952	370,640,260
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除)	△1,128,828	0	△1,128,828
	国庫補助金等特別積立金積立額	138,899,000	220,983,000	△82,084,000
	その他の特別損失	450,000	0	450,000
	特別費用計(9)	513,390,384	225,512,952	287,877,432
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△306,651,384	△829,952	△305,821,432
	税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△324,565,847	△1,999,697	△322,566,150
	法人税、住民税及び事業税(12)	0	0	0
	法人税等調整額(13)	0	0	0
	当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)	△324,565,847	△1,999,697	△322,566,150
	繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(15)	2,916,691,543	2,925,474,431
当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)		2,592,125,696	2,923,474,734	△331,349,038
基本金取崩額(17)		0	0	0
その他の積立金取崩額(18)		879,892,002	98,046,097	781,845,905
その他の積立金積立額(19)		1,274,313,130	1,040,829,288	1,169,483,842
次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)	2,197,704,568	2,916,691,543	△718,986,975	

みやぎの福祉従事者の育成・支援のために



▲研修の様子<福祉職員キャリアパス対応型生涯研修課程（中堅職員コース）>

みやぎハートフルセンター福祉研修センターでは、本会独自事業の自主研修（表1）をはじめ、宮城県からの委託を受け、福祉に関する様々な研修（表2）を企画・実施しています。

現在は、社会福祉法人や行政機関、NPO、企業など、様々な事業所が福祉サービスを提供しています。こうした背景から、当センターが運営する研修ではグループワークや話し合いを取り入れ、参加者間の学びを大切にしています。参加者の多様な視点から学びあうことで、サービスの質の向上と人材育成を目指しています。

近年、感染症対策としてオンライン配信型の研修を積極的に取り入れてきましたが、参加者から「会場に集まり研修をしたい」との声もあり、昨年度から会場集合型研修の本数を増やしています。

今年度は、昨年度末に実施した社会福祉法人・関係団体向けニーズ調査の結果をもとに、一部の研修時間の短縮や、新たな研修テーマを複数設定し、実施する予定です。

当センターで運営している研修情報は、宮城県社会福祉協議会ホームページに随時掲載しています。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

問い合わせ

みやぎハートフルセンター福祉研修センター研修係

電話番号 022 (225) 8479

ホームページ <https://www.miyagi-sfk.net/study/155/>

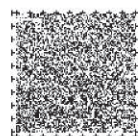


今後実施予定の自主研修一覧（表1）

研修名	日程	ねらい	実施形態
1 レジリエンス研修	8月22日（金）	福祉職員が受けるストレスとの向き合い方について学び、レジリエンス＝精神的回復力を身につける方法を学ぶ。	会場集合
2 障害者虐待防止研修1班	9月19日（金）	障害者虐待防止法成立の経緯や、法の概要を理解し、虐待を生まないための体制作りについて職員各自が振り返り、考えるための研修。 ※1、2班とも同じ内容です。	オンライン配信
3 障害者虐待防止研修2班	9月30日（火）		
4 クレーム対応研修	10月3日（金）	苦情対応の基本的知識・技術を学び、組織の一員として初期対応ができることを目指す。	会場集合
5 福祉職員キャリアパス対応型生涯研修課程 中堅職員コース	11月11日（火）～11月12日（水）	中堅職員としての役割を遂行するための基本を習得する。中堅職員としてのキャリアアップの方向を考える。	会場集合
6 アンガーマネジメント研修【一般職員向け】	12月9日（火）午前	福祉現場で起こりやすい「怒り」の感情と自分自身の行動傾向を振り返り、感情をコントロールするマネジメント手法を学ぶ。	オンライン配信
7 アンガーマネジメント研修【管理監督職員向け】	12月9日（火）午後		
8 リスクマネジメント研修	令和8年2月予定	事故発生メカニズムとリスクマネジメントについて学び、再発防止に有効な対策と仕組みについて考える。	オンライン配信

今後実施予定の社会福祉研修一覧（表2）

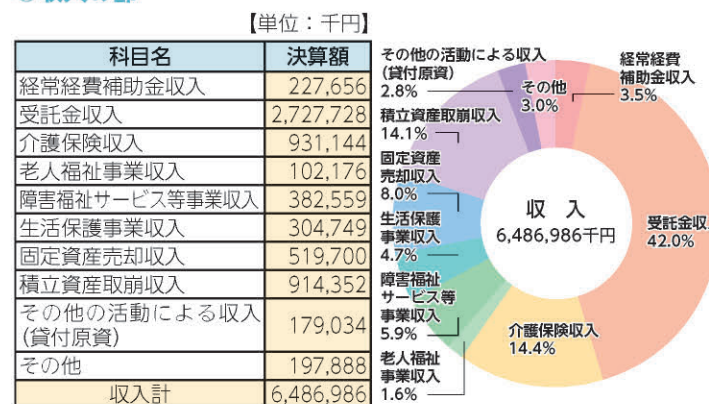
研修名	日程	ねらい	実施形態
1 社会福祉施設 新任職員研修2班	8月27日（水） 8月28日（木）	社会福祉に従事する職員として基本的な知識と技能を身につける。	会場集合
2 社会福祉施設 新任職員研修3班	10月15日（水） 10月16日（木）		会場集合
3 コミュニケーション技術・対人援助技術研修2班	8月5日（火）	社会福祉分野における諸課題を掘り下げて検討することを通して、福祉サービス向上のための専門的な知識と技能を身につける。	オンライン配信
4 コミュニケーション技術・対人援助技術研修3班	10月22日（水）		会場集合
5 保育施設主任保育士研修	8月29日（金）	保育施設における主任保育士として必要な知識と技能を身につける。	会場＋オンライン併用
6 保育施設保育士基礎研修	9月9日（火）	保育士としての基本的な知識と技能を身につける。	会場集合
7 保育施設給食担当職員研修	9月24日（水）	保育施設における給食の重要性を認識するとともに、給食担当者としての専門的な知識と技能を身につける。	会場集合
8 社会福祉施設保健担当職員研修	10月7日（火）	保健担当者として、利用者の保健衛生に関する専門的な知識と技能を身につける。	会場集合
9 業務改善研修	11月6日（木）	社会福祉分野における諸課題を掘り下げて検討することを通して、福祉サービス向上のための専門的な知識と技能を身につける。	会場集合
10 社会福祉施設中堅・監督職員研修	11月18日（火）	社会福祉施設の指導・監督職員として必要な知識と技能を身につける。	会場集合
11 障害者福祉施設職員研修	12月2日（火）	社会福祉施設に従事する者として、それぞれの分野における専門的な知識と技能を身につける。	会場集合
12 保育施設長研修	12月11日（木）	保育施設の運営の責任者として高度に専門的な知識と技能を身につける。	会場＋オンライン併用
13 社会福祉施設等経営者研修	令和8年2月予定 ※調整中	社会福祉施設における経営者として必要な知識と技能を身につける。	会場集合



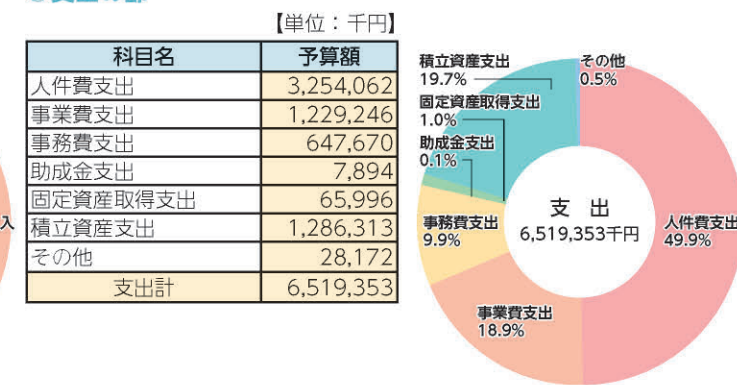
令和6年度決算の概要

《令和6年度 一般会計資金収支について》

○収入の部



○支出の部

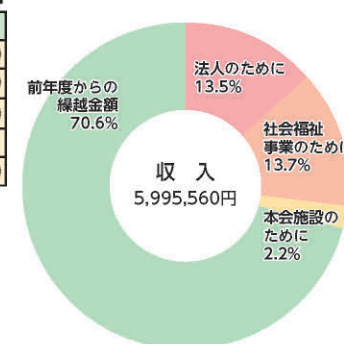


《令和6年度寄附金の使途について》

○令和6年度寄附金収入内訳

（前年度寄附金収入など）【単位：円】

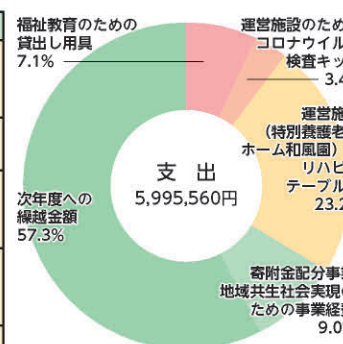
種別	金額
法人のために	810,000
社会福祉事業のために	819,479
本会施設のために	131,000
前年度からの繰越金額	4,235,081
合計	5,995,560



○令和6年度寄附金使途内訳

【単位：円】

内容	金額
福祉教育のための貸出し用具（高齢者疑似体験、妊婦疑似体験セット）	427,900
運営施設のためのコロナウイルス検査キット	204,000
運営施設（特別養護老人ホーム和風園）のリハビリテーブル他	1,391,200
寄附金配分事業 地域共生社会実現のための事業経費（福祉団体助成金 7件）	539,875
次年度への繰越金額	3,432,585
合計	5,995,560



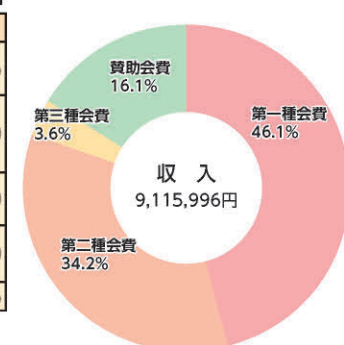
※法人本部で取扱いのあったもののみ表示しています。

《令和6年度会費の使途について》

○会費収入内訳

【単位：円】

種別	会員数	金額
第一種会費 市町村社協 様	35 社協	4,201,996
第二種会費 福祉施設、保育所など 様	363 施設	3,114,000
第三種会費 福祉関係団体 様	34 団体	330,000
賛助会費 企業・個人 様	38 社 6 人	1,470,000
合計	476 会員	9,115,996



○会費使途内訳

【単位：円】

内容	金額
①福祉みやぎ発行事業 ●「福祉みやぎ」の発行…年6回1回あたり14,500部発行 ●ホームページ運営費、サーバー利用料など	4,395,055
②市町村社協地域福祉推進支援事業 ●県内の地域福祉の向上のため、市町村社協等を対象とした研修・会議の開催など	1,340,822
③みやぎボランティア総合センター運営事業 ●災害ボランティアセンター運営支援システムの運用経費	1,504,184
④社会福祉施設経営指導事業 ●福祉施設、市町村社協等を対象とした事業運営や労務、会計管理に関する研修及び相談支援など	319,660
⑤社会福祉施設支援事業 ●児童福祉施設、里親会等と共に就職等で自立をする児童を対象に記念品の贈呈など	225,538
⑥法人運営事務事業 ●事業計画・当初予算書及び事業・決算報告書印刷ほか、会員に関する連絡調整等事務的経費など	1,330,737
合計	9,115,996

